

令和6年度 第2回 立川市スポーツ推進審議会 会議録

(基本情報)

会議名称	令和6年度 第2回 立川市スポーツ推進審議会
開催日時	令和6年10月21日(月曜日) 午後7時00分～午後9時00分
開催場所	立川市泉市民体育館 研修室
次第	1 開会 2 報告・協議 (1) 第3次スポーツ推進計画基本理念について (2) 第3次スポーツ推進計画(骨子案)について 3 その他
資料	・資料1 第3次スポーツ推進計画骨子案 ・資料2 立川市第2次スポーツ推進計画の実施状況(令和5年度実績)について ・資料3 立川市民のスポーツに関する意識調査結果(詳細版) ・資料4 立川市内小中学生向けスポーツに関する意識調査結果(詳細版) ・参考資料 第5次基本構想素案 ・参考資料 第5次長期総合計画前期基本計画 素案概略 ・参考資料 第5次長期総合計画政策・施策体系
出席者	[委員] 原田 尚幸、芦澤 清八、松原 幸子、福原 憲生、山口 聡、永島 康雄、 小川 祐太郎、原 宏樹、森川 良行、角田 康行、出倉 光一、竹内 涼子 [事務局] 井上 隆一(産業文化スポーツ部長)、中村 達也(スポーツ振興課長)、 木村 誠(スポーツ振興係長)、秋元 公貴(体育施設整備等担当係長)、 野毛 大揮(スポーツ振興係)
公開及び非公開	公開
傍聴者数	1人
担当	産業文化スポーツ部スポーツ振興課スポーツ振興係 電話 042-529-8515

1 開会

2 報告・協議

(1) 第3次スポーツ推進計画基本理念について

- ・事務局（スポーツ振興課長）から資料1、参考資料に基づき説明
- ・（目指す姿について）基本的には良いと思う。スポーツをやっているうちに喧嘩になってしまうこともあるので、精神的な面でどうしたら仲良くワクワクできるかを追記できたら良いと感じた。
- ・「ワクワクし」の「し」は無くてもいいのではないかな。また、「誰もが」を「誰もの」に変えてもいいのではないかな。
⇒「し」を取るのは問題ない、「誰もが」については、表現として硬いため、なくしてもいいのではといった意見も前回でしていた。また、「ワクワク」をひらがなにするのかカタカナで表記するのもご協議いただきたい。
- ・「誰もが」と「みんなで」というのは重複しているため、削除してもいいのでは。
- ・「みんな」だと、全体で一塊、「誰もが」だと一人一人といったイメージがあるといったご意見を前回いただいたため、それぞれ記載させていただいている意図がある。
- ・重複表現を削除し、簡潔に短くしても、意図の説明によって補完されているため、問題はない気がする。
- ・ワクワクという言葉の思い浮かべると、カタカナの方が分かりやすいかなと感じる。
- ・「ワクワク」で区切る場合、「広がり」ではなく、「広がる」ではいかがかな。
⇒その次の「笑顔あふれる」で「る」が繰り返されるため、「り」になっているのでは
- ・「広がり」では切れてしまい、うまく文章が流れていない印象を受けるため、「みんなの“わ”が広がって」ではいかがかな。
- ・二段にすれば意図や流れは通じるかもしれないが、これは常に二段で表記されるものになるのか。
⇒前回の第2次スポーツ推進計画では二段で示している。ものによっては一段表記になる場合もあるが、基本的には二段で示していく。
- ・下の文章で補完されているので、「誰もが」を削除し、「スポーツでわくわく！」で区切る形でもいいと思う。
- ・極端な話、「笑顔あふれるまち」で終わらせて、「立川」をカットしても通じないかな。
⇒どこを舞台とした基本理念なのかは重要なので、「立川」は必要だと考える。また、上位計画でも「立川」で終わっているのでも、その整合性は取れた方が良いと感じる。
- ・「広がる」だと、「あふれる」と「る」が重なるという意見があったが、「みんなの」を削除し、「誰もがスポーツでワクワク（改行）“わ”が広がる笑顔のまち立川」ではいかがかな。
- ・「“わ”と笑顔があふれるまち立川」ではいかがかな。「“わ”」と「笑顔」は入れた方が良さそうだが、「みんなの」や「広がる」「あふれる」を全部いれてしまうと、言いたいことは分かるが長くなりすぎてしまい、ごちゃごちゃしていると感じる。
- ・「スポーツ」と「ワクワク」、「“わ”」「笑顔」は入れる。「立川」と「まち」をどうするのか、「あふれる」「ひろがる」をどう表現するのか。
- ・みんなのを削除し、「“わ”」を残す場合、漢字（「輪」）にしなければ伝わりにくいのではないかな。
⇒下に記載されている“わ”にもいろいろな意味を持たせたい意図もある。前回は「輪」と「和」しかないとご議論されていたので、「話」や「笑」を追記し、ひとつの“わ”の中に組み入れているため、漢字の「輪」に固定してしまうと元のコンセプトから外れてしまう。
- ・“わ”と笑顔が広がっていくイメージなのか、“わ”が広がった結果、笑顔があふれるまちになったのかでは、どちらが良いかな。
⇒様々な意味を持たせた“わ”が広がって結果として笑顔があふれるまち立川になるといった意図でお作りした。
- ・「立川」だけでは人名のように聞こえるため、「～のまち」は付けた方が良いと感じる。
- ・スローガンのように短くした方がいいのか。
⇒スローガンではなく理念のため、意味が通じればそこまで短くすることにこだわらなくても良い。ただやるだけではなく、スポーツでワクワクするというのは共通理解を得ている。ワクワクすることと“わ”が広がっていくことで、結果として笑顔があふれるまちになるという解釈であればそこまでおかしくはないのかなと感じている。
- ・「誰もがスポーツでワクワク！（改行）みんなの“わ”が広がり笑顔あふれるまち立川」の「誰もが」を入れるかがポイントになってくる。
- ・二段にするとそこまで変に感じない。

- ・これまでいろいろな“わ”があるといった議論があり、それが広がっていくことでみんなが「笑顔」になっていく。「笑顔」＝「幸せ」であるため、幸せがまちにあふれているという意味でいくと、そんなにおかしくないのではないかと感じる。
- ・(一行目)何でワクワクするのか→スポーツでワクワクする。何かを具体的な施策をやるときにそれはワクワクすることなのかという点を考えないといけない。第一回の議論に通じるが、市民の皆様の週一回の運動実施率を70%にすることの意味というのが、週に一回何かスポーツでワクワクする人が70%と置き換える事が出来る。2段落目の考え方として、これまで議論してきた様々な“わ”が広がっていく結果として笑顔になり、笑顔があふれていく地域立川という解釈ができるこのような形でも良いのではないかと感じるがいかがか。
- ・「広がり」を「広がる」にしてはいいかがか。
⇒「広がる」と「あふれる」で「る」が2回続くのは違和感がある。「り」で句読点はないが一度区切れるのが良いと思う。
- ・「誰もが」と「みんな」は同じなようで同じではないイメージがあり、実際に障害がある人もない人もという意味で入れていたかと思う。それが「みんな」と言ってしまうとそれまでだが、入れてみてはいいかがか。
⇒下に補完されている文章の中で「障害者」もアピールになっているため、入れなくてもわかりやすくていいのではないか。
⇒改行によって文章を区切るのであれば、「誰もが」を入れることで、主語が入って文書的には良いのではないか。
- ・文は原案から大きくは変わらないが、二段に分ける意図が違ってきている。
- ・どうしても一文にするとすると、「ワクワクし」が良いが、長く間延びした印象を受けるため、二段にする形が良いと思う。
- ・「ワクワク」が入ることで、スポーツとは根本的に楽しむものであることが表現され、ただ強制されてやらされているわけではないことがアピールとなって良いと思う。
- ・これまでのご意見を取りまとめ、「誰もがスポーツでワクワク！(改行)みんなの“わ”が広がり笑顔あふれるまち立川」で確定させていただく。
- ・補足だが、参考資料「第5次長期総合計画政策・施策体系」のスポーツ推進のセールスポイントの箇所に「ワクワク」を入れるような形で調整中。

(2) 第3次スポーツ推進計画(骨子案)について

- ・事務局(スポーツ振興課長)から資料1、資料2に基づき説明
- ・基本施策の「推進」と「促進」の言葉の使い分けの意図は何か。
⇒推進は言葉の通り目指す姿に向けて推し進める、促進は認知度の向上など物事を広げていくようなイメージ。
⇒(補足)スピード感の違いがある。「推進」というと目標などを積極的に進めていくことを指す。主体的に行動し、物事を前に進めるという意味合いが強く、「促進」は、ある活動や物事が進むように助けたり、支援したりすることを指す。手法はイベントなど様々にあるが、主体的に進めるというよりも、周囲の状況を整え、強く後押しするようなイメージで、何かが自然に進むようにサポートする場合に使用している。
- ・基本方針の4が前回計画から追加されているが、「持続可能なスポーツ施設の整備・充実」というのは、既存のまま長く使っていくようなイメージなのか、改修工事を進めていくようなイメージなのか、参考までに今後の方向性のイメージ感を教えていただきたい。
⇒立川市では体育施設のあり方(10年先を見据えた方向性)というのを令和3年度にお示したところ。今後のスポーツ施設の考え方としては、既存施設をいかに有効的に持続可能な施設として維持・管理していくかが基本的なスタンスの方向性。将来的な人口減少や高齢化を見据えてどのような施設が必要かを根本的に考えていかなければならない。現状では新たな施設を無制限に作るというのは難しいため、建物については既存の施設を有効に長寿化していく。一方で、環境整備の面では屋外体育施設の使い方を見直しを図る。この後ご紹介するアンケート調査結果にある通り、スポーツ施設が身近にあると、スポーツをするモチベーションになるため、いかに既存施設を有効に活用していくかというソフト的な部分も充実させつつ、今後この持続可能なスポーツ施設の整備・充実の部分は考えていきたい。
- ・公共施設の床面積を3割削減するといったような全体的な規模間のイメージはあったが、社会状況の変化も踏まえ、現在考え方を整理している。
- ・障害者スポーツの普及・促進とあるが、「パラスポーツ」など表現の変更はないのか。

- ⇒スポーツの表現の中には「ユニバーサルスポーツ」といった障害がある方もない方も同じような形でスポーツと一緒にやっという考え方もある。今回あえて「障害者スポーツ」といった表現を残した意図としては、「ささえるスポーツ」の認知度が浸透していないため、障害者スポーツを通じてさらに認知度を高めていきたい。
- ・地元スポーツの観戦率に係る成果指標はあるのか。
⇒基本方針2の成果指標の一つとして、「プロスポーツ団体との連携事業数」を指標としている。個別計画の中で、もう一つそれぞれの基本方針の中に指標を加えたいと思っている。その中でご指摘をいただいたような指標も考えられる。
 - ・「する」「みる」「ささえる」視点は基本施策のところでは気にしないでいいのか。
⇒視点としては持ちつつ設定していく。
 - ・具体的過ぎても身動きが取れなくなってしまうが、理念を達成するために、例えば地元のチームとの接点を増やす企画だけでなく、実際に会場に足を運んだ人も増やしていく必要がある。また、地域人材・組織の育成と環境づくりの促進という点において、例えば地域レベルでスポーツを促進するという意味では、指導者の育成やイベントのボランティアの確保等が具体的な施策としてぶら下がってくるだろう。そうなれば一度でもイベントのボランティアなどで一度でもお手伝いした人の割合を何%にする、といった形で成果指標が今後作られていくというイメージか。
⇒具体的にどこにぶら下げていくかというのは、それぞれの取り組み事業を洗い出した上でのパズルのような形になる。どこにぶら下げた方が最終的な基本方針の実現に資するものか検討していく。
 - ・基本方針3、4について、視点としては共通して「誰もがアクセスできる」と書いてあるが、重なる部分はありつつも、もう少し明確に差別化できるうまい表現はないか。基本方針3については、成果指標の利用者人数の増加＝環境が充実しているのかということ、それだけではないような気がしている。基本方針4についてはハード面のイメージが表現されているが、基本方針3でもソフト面を形容するようないい表現は無いのか。
⇒現行の第2次スポーツ推進計画の基本方針3を3と4に分けた意図としては、おっしゃる通りハード面とソフト面の区別である。基本方針4についてはいわゆる老朽化していくスポーツ施設を今後どう維持していくのかを抽出し、ハード面を中心に考えている。一方で基本方針3のスポーツ環境の充実というのはソフト面を重視しており、施設を有効活用していくためのソフト的な施策を打つことで、様々な意味でのスポーツ環境の充実につながる指標を設けたいと考えている。
 - ・「スポーツ環境」といってしまうと、スポーツ施設が入ってくるイメージが強い。何か良い表現はないか。
⇒確かに施設や教室なども全て環境といった捉え方もできるが、現状として公共施設を作り続けることはできないため、「いかに既存施設を改修していくのか」を見せていくためにあえて施設の整備マネジメントを外に出している。一方「環境」では、あくまでもスポーツ教室等のソフト的な面を重視しており、市で一番指標を取れるのが体育館や屋外体育施設の利用者数をもって環境の充実度合いを測れないか検討している状況。
 - ・それならば、基本方針3を「スポーツ教室等の充実」といった表現にした方がよろしいのではないか。
⇒「スポーツ教室」といってしまうと、市だけではなく民間やスポーツ推進委員、地域の地区体育会が主催している他、各学校で放課後子ども教室等も実施している。全市対象で教室の詳細な数値が取れないため、これらを含める「環境」という表現を用いて、利用者数を指標として設けている。
 - ・基本方針3基本施策の「スポーツ施設の有効活用・利用促進」にて、この五年間でイメージしているのは、施設予約のしやすいやり方の検討である。具体的には、施設予約システムをより使いやすくするために、キャッシュレス化等を検討している。また、「地域人材・組織の育成と環境づくりの促進」では、中学校部活動の地域連携地域移行に繋がるような地域の指導者の育成や環境づくりに取り組んでいく。「スポーツ情報を活用した興味・関心の喚起」では、スマートフォン等の情報発信のツールを用いたスポーツの啓発といったソフト的な事業が基本方針3には関わってくる。
 - ・対象としているのは立川市民だけか。
⇒基本的には立川市民のスポーツ振興に資する取り組みをするというのが我々のスタンスであるが、近隣の方との交流や、市外の方の施設利用を排除するものではない。
 - ・成果指標として施設利用者等のデータを取る際に、市民の区別をしないのであれば、計画自体は立川市民だけではなく、立川にくる「誰もが」スポーツでワクワクするようなスタンスで施策を組み

- 立てるべきではないか。もちろんお金を出すことなので、市民の為にやらなければならないことは基本的にはあるが、あまり固く考えなくても「誰でもいいから立川市民と一緒にスポーツをやりましょう」という姿勢」が基本方針の中にあるかをお伺いしたい。
- ⇒利用料金の差等の区別はする。結果的に市民の為に資するものであれば閉鎖的に考えるつもりは毛頭ないため、そのような視点で成果指標を設ける。
- ・計画の軸足となるのは市民である。市民の数値を向上させるために市の施策を展開しているのが基本である。その他の利用者がいらっしゃるのは全然かまわないし、排除するものではないが、要は市民のみなさんが週に一回どれくらい運動したかや、どれだけスポーツ観戦にいったか、どれだけボランティアに参加したかが数値目標として判断材料になる。
 - ・施設に関して、数字目標の上では市外も混ざることもあるが、ここで議論している内容において、念頭に置いているのは市民である。施設利用者の数値上も、やり方によっては市民のみに絞って調査する事もできるかもしれない。企業との連携等、ケースによっては必ずしも関わっているのが全員市民とは限らないが、今ここで議論を進めるうえで最優先に考えるのは市民である。これは市外を排除するものではない。
 - ・基本方針3と4の中身が同じではないかとのことのご意見があったが、基本方針3はマネジメントの話で、ヒトモノカネ情報において誰をターゲットに何を提供するのかということ、「施設」あるいは「プログラム」や「情報」である。これらを中心に市民の皆様により使っていただけるような事業に取り組んでいくものである。一方で基本方針4のところを独立させているのは、丁度市の方で、市内のスポーツ施設をどうするか検討しているタイミングであり、どちらかということアドミニストレーション（施設の管理運営）の面が強いものである。表現の仕方は検討するにしても、分けて考えれば整理できる。基本方針はどんなプログラムやサービスを提供するのか有効活用してもらうために必要な取り組みが中心となっている。
 - ・目標達成に向けた4つの視点と基本方針の関係性について、基本施策やその下にぶら下がってくる事業レベルまで関係するのかお伺いしたい。
⇒資料1の2ページ目で表現されている通り、「スポーツでワクワクする」という点は通底するような形で表現されている。「する/みる/ささえる」視点においても、それぞれの基本方針でウェイトは異なるが、基本的には何かしらの形で全てに関わってくる。
 - ・基本方針4について、子ども達の小中学校の体育館や校庭等の体育施設について、施設の管理方法の方針等、市の見解を伺いたい。
⇒子どもたちのスポーツ環境の充実という点でも関わるところ。教育施設については、学校教育に支障のない範囲でスポーツ振興の立場からお借りしていく。施設の管理については、こちらのスポーツ推進計画のカテゴリーではなく、学校教育の範囲となる。
 - ・昔近隣の小学校の体育館における夜間の開放で、卓球やバドミントン等のスポーツ利用に活用させていただいていたが、今は学校体育施設の有効利用について、どのように取り組まれているのか
⇒現在も夜間の社会体育の定期利用という形で、学校教育に支障のない範囲の開放を行っている。
 - ・先程の内容と重複するが、市は税金を住民だけでなく、事業者や土地を持っている人、家屋を持っている人等からも貰っている。これらを原資として施策を行う為、「住民だけ」の視点ではなく、「立川に集まるすべての人が」スポーツでワクワクできるまちを目指す基本理念を持った方が、最終的にも立川市全体の発展に寄与するのではと思う。
⇒市民以外を排除する閉鎖的な視点ではなく、広い視点を持つ意識で計画を考えていく。
 - ・資料2のp10について、プロスポーツチーム等との連携によるスポーツの推進とあるが、アマとの融合についての見解をお伺いしたい。また、p5に、障害者スポーツという表記があるが、「害」の字をひらがな表記の「がい」に変更していただけないか。
⇒プロとアマの融合については、学校訪問等の活動を通じて競技の普及に努める等、立川をホームタウンとするプロスポーツチームはその理念で事業を行っている。「障害者」表記については、立川市として統一されている。
 - ・今後の熱中症対策について。現時点からどのように外の施設を使えるようにしていくのかを考えなければ、みんなにスポーツを楽しんでもらうために人を集めても場所がなくなってしまう。あまり猶予のない問題である。
⇒スポーツ環境の充実のところに、「スポーツ施設の有効活用・利用促進」とあるが、具体的に今年度から取り組んだ内容としては、立川市のスポーツ施設である陸上競技場において、冬季閉鎖を廃止した。閉鎖の意図は、降霜によるグラウンド状態の悪化防止だったが、温暖化により、昨今では霜が降りない状況が続いている。逆に夏季期間の酷暑の方が危険という点を勘案し、通年化する事で夏季期間から冬季期間へ利用者を誘導していく。今市内ではまだ冬季に利用できな

い施設がいくつかあるため、同様に冬季期間を有効に活用する等、工夫をしていく。

- ・施設の整備マネジメントの中に熱中症対策を組み入れていくべきだという意見がでたが、立川市スポーツ協会においても、今年度 200 万程の金額を用いてミストファンやテントを加盟団体へ導入した。これらは一般市民の方もご利用いただいて構わないとお伝えしている。このような取り組みを計画の中に組み入れていかなければならないと思う。大きな体育館にすべてエアコンを設置するのは難しいだろうが、できる事から考慮していくべきだと感じる。
- ・学校体育館にエアコンが設置されているのは素晴らしいことだと思う。
- ・基本施策内の「地域スポーツ団体」「ホームタウンチーム」とはどう違うのか。
⇒「地域スポーツ団体」とは、いわゆる地域に根付いた地区の体育会や、それにぶら下がるテニスや野球といった競技のアマチュア的な団体である。「ホームタウンチーム」とは、立川市を拠点として活動するプロスポーツチームを指す。
- ・目指す姿の「誰もが」を「あなたも」とし、お誘い文句的なニュアンスを加えるのはいかがか。
⇒「あなたも」だと、「みんな」と重複しているような印象を受けるため、「誰もが」でいいのではないか
- ・様々なご意見をいただいたが、これらを踏まえて今後さらに具体的な内容を詰めていくような形となる本日いただいた基本方針と基本施策について、何か修正や追加があればお受けしたいと思うが、いかがか。特になければ原案をこの場でお認めしたということで進めさせていただく。
(異議なし)

3 その他

(1) 立川市民のスポーツに関する意識調査結果（詳細版）

- ・事務局（スポーツ振興課長）から資料 3、資料 4 に基づき説明
- ・立川市の体力測定の実状はいかがか。
⇒全国的な傾向と同様な状況

(2) 委員からの情報提供

- ・（永島委員）資料に基づき、おたまじゃくしリレーについて情報提供
- ・（原委員）真央リンクについて情報提供（11 月 11 日オープン）、立川ダイスについて情報提供
- ・（事務局）次回は 1 月の開催を予定している。改めて日程調整のご連絡をさせていただく。

閉会